

設置年月日	2023年4月1日
出資企業	マルホ株式会社
世話教授	藤本 学 大阪大学大学院医学系研究科・皮膚科学・教授
研究代表者	藤本 学 大阪大学大学院医学系研究科・皮膚科学・教授
教員・研究員等	渡邊 玲 皮膚免疫疾患治療学共同研究講座・招へい教授 石塚 洋典 皮膚免疫疾患治療学共同研究講座・特任講師（常勤）
講座紹介URL	http://www.comit.med.osaka-u.ac.jp/jp/project/projectA30.html



藤本 学 教授

設置趣旨・目的

皮膚科学教室及びアレルギー免疫疾患統合医療学寄附講座では皮膚免疫担当細胞の研究を継続して実施してきており、これまでに皮膚に長期間とどまり続ける resident memory T 細胞（TRM）が皮膚疾患発現や再燃、重症度に関わることを報告してきました。マルホ株式会社は、皮膚疾患に特化した製

薬企業であり、同寄附講座にも参画してきたことから、皮膚免疫疾患の機序解明やT細胞機能の正常化を軸とした疾患治療薬の開発を目的として、検証を相補できる同社との共同研究により研究推進を図るべく、その研究開発拠点として2023年4月に共同研究講座を新たに設置しました。

研究内容・研究活動

尋常性乾癬、円形脱毛症、尋常性白斑といった皮膚免疫疾患は、直接生命の危機に結び付くことが少なくとも、慢性に経過し、かゆみなどの症状や外観の問題が長期間続きます。社会生活が著しく損なわれ、本来あるべき人生設計を大きく狂わせてしまう life-ruining disease という側面を持ちます。近年、生物学的製剤や低分子阻害剤の開発が相次ぎ、重症例における治療選択肢が格段に増えましたが、長期継続の妥当性や全身治療による副作用など、課題が多く残っています。我々は、副作用を最小限にとどめる外用薬の開発を視野に入れ、若年で発症し長く症状が続くこれらの皮膚疾患において、長期間の有効性維持に貢献できる安全な治療薬の開発をか

なえたいと考えてきました。

我々は、これまでに皮膚に局在する免疫細胞が上述の皮膚免疫疾患の発現や再燃、疾患予後に関わることを明らかにしてきており、本共同研究講座では、皮膚免疫疾患の機序解明やT細胞機能の正常化を軸とした疾患治療薬の開発に向け、皮膚 Resident memory T 細胞（TRM）の構築、生存及び機能保持機構をより詳細に解明するとともに、治療ターゲットの検証を行うことを目指してきました。

現在までにその一端を担う分子メカニズムを明らかとし、治療ターゲットになる可能性を見出しておりますが、今後皮膚免疫疾患の機序解明研究の更なる推進のため、様々な皮膚免

疫疾患由来のバイオリソースを用いて、ゲノム・エピジェネティック修飾・タンパク・mRNA・細菌叢などを網羅的に解析することで、皮膚免疫疾患の更なる病態解明及び治療ターゲットの検証を目指します。

さらに、各疾患の重症度、治療反応性、寛解維持に関わる皮膚免疫細胞の特徴を明らかにし、疾患指標として確立することで、患者さん一人一人の疾患の特徴に合致した治療標的、治療強度、治療期間を見出せるようなオーダーメイド医療の実現を目指してまいります。

